

各委員会活動

当事業団の委員会は、事故防止委員会、薬事委員会、安全衛生・環境整備委員会、研究・研修・図書委員会、情報システム委員会により構成されている。医療の質の向上と安全性の確保、日常業務の効率化等の諸問題に対して活発な討議を行っている。個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づき研修会や広報を適時行い、全職員に周知徹底を図っている。主な委員会のこの1年間の活動状況は以下のとおりである。

事故防止委員会

1. 当診療所におけるインシデント・アクシデントレポート報告に対する対策

今年度のアクシデントは昨年より一件少ない5件、インシデントは例年より多い15件であった。

今年度は身体危険度のあるものでは救急受診となった採血後痙攣、後日受診となった造影剤漏れがあった。軽度ではインシデントとして採血後疼痛4件の他バリウム誤嚥・婦人科診察台足の挟まりも報告された。いずれもトラブル発生後の対処や説明を受診者にも心配をかけないようにマニュアルに従って実施できた。また、造影剤漏れ・アナフィラキシーも含めて、今年は「造影剤使用に伴う副作用発現次の初期対応」を作成した。

	7年度			6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
	ア	イ	内容	ア	ア	ア	ア	ア
1 検査健診項目	0	3	重複、削除漏れ、腹囲測定	2	3	2	5	0
2 データ管理	3	6	判定基準ミス、上書き?	1	0	2	5	2
3 個人情報管理	0	0		1	0	0	0	0
4 機器管理トラブル	0	0		0	0	0	0	0
5 治療処置	2	6	採血後痙攣・造影剤漏れ等	2	0	3	3	2
6 転倒転落	0	0		10	1	0	0	1
7 その他	0	0		0	1	0	0	0
計	5件	15件		6件	5件	4件	13件	5件

2. 医療機関における事例情報共有

医療事故調査制度によると、今まで月約30件の事故報告が上がっている。今年度の提言は、「第21号産科危機的出血に係わる妊産婦死亡事例の分析」であり、警鐘レポート「No.3異所性妊娠に伴う卵管破裂による死亡」「No.4気管切開術後早期のチューブ逸脱・迷入による死亡」「No.5血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡」であった。いずれも当診療所では扱わないものであり情報提供のみ行なった。

また日本医療機能評価機構の医療安全情報を委員会で発表し、当診療所に係る情報を提供した。今年度は「カリウム製剤の投与方法間違い」「カテコラミン製剤の持続投与の中断」「退院時の処方漏れによる内服の中断」「既読の画像診断報告書の重要所見の未対応」「定数配置薬からのアレルギーがある薬剤の投与」「冷却枕による凍傷」「粉碎調整された持参薬の過量投与」「神経ブロックの左右取り違い」「電話呼び出し時の患者取り違い」「使用期間を超過した胃瘻カテーテルの破損」などを報告し、関連部署に注意を喚起した。特に「既読の画像診断報告書の重要所見の未対応」に関しては、当所での外部CT読影所見を

至急対応が必要かどうかをオーダー医に確認はしているが、目的部位以外のガン疑いの所見を放置していないか・受診者が結果を聞きにきていないかどうかを確認するために検査後１－２ヶ月後経ってから改めて事故防止委員長がダブルの確認を行うように運用を開始した。

3.その他

事故防止教育について、前半はyoutube動画４本、後半はスライド６本で行なった。

全職員の試聴を確認している。厚生労働省 医療安全普及啓発動画・日新病院動画・獨協医大安全推進スライドを使用した。

「注射針を捨てないで」ポスター作成・掲示した。

「事故防止の要点と対策の更新」を各部で行なった。

今後も医療安全情報を発信し、インシデントアクシデント事例をまとめその対策を確認し、繰り返し発信することで、職員教育にも生かしていく。次年度は感染症対策の更新を行う予定である。

(山下 毅 記)

安全衛生・環境整備委員会

■恒常的活動

1. 安全衛生

①健康管理:職員の定期健康診断、当診療所および他院の外来受診状況から、職員の健康管理を行った。

安全衛生教育および安全衛生情報の提供を実施した。また、ストレスチェックを実施した。

②労務管理:産前産後休業や時短勤務状況および超過勤務状況から労務管理状況を掌握し、必要であれば職員個人および部門に改善を求めた。

①-②により、職員が健康で安全に働ける職場作りを目指した。

2. 環境整備

①労働環境衛生:職場巡視により、利用者目線での施設・設備について、特にハード面での補修・改善、工事の必要性に関して事務局に提案した。

②労働環境測定結果を定期的に報告し、冷暖房の効きがよい場所については扇風機、暖房器具による対応を促した。

③防災:東日本大震災、熊本地震および能登半島地震の教訓から、防災グッズの更新・新規購入と保管先について確認した。

④施設利用状況に対する職員の指摘メモ(CSメモ:customer satisfaction)、当健診センターおよび診療所利用者の声(ご意見箱アンケート等)をもとに事実関係を各部門に報告して改善を促した。

⑤定期的な掲示物のチェックと受診者用図書ならびに医療関係ビデオの管理を行った。

①-⑤により、結果として利用者が安心・信頼できる組織・施設作りを目指した。

■今年度の特性

【1】安全衛生:

①今年度は定期健康診断時に、腫瘍マーカーとBNPの測定、希望者に乳腺エコー検査を実施した。定期健康診断の結果については、全体的には職員の健康状態はおおむね良好で、重大疾患や事故・労災の発生を認めなかった。

- ②夏期に多い細菌性食中毒・夏かぜ・熱中症と冬期に多いインフルエンザ、ノロウイルスへの予防と体調管理、冬から春に多い季節性アレルギー疾患（花粉症）についての情報提供と対策を報告した。なお、新型コロナウイルス感染症の流行はなく、散发例が報告されている。
- 希望者に無償でインフルエンザワクチンの接種（36名）とインフルエンザ予防薬の配布（希望者なし）を実施した。
- 11月に職員の自費新型コロナウイルスワクチン接種は10,000円かかることが仮決定。（12月：常務会で税込11,000円で決定）
- 2月にB型インフルエンザが流行。A型に罹っていても感染するので注意が必要である。
- なお、2026年2月から都内を始め、感染力の強い麻疹が若年者を中心に流行しつつあるので、注意が必要である。
- 感染症対策として、3密を避け、マスクの着用、うがい・手洗い・体調管理をすること。
- ③ストレスチェックを9月に実施した。
- 対象：34名、受検者34名（100%）（前回は94.2%）、高ストレス者3名（前回は4名）、高ストレス者面談はなし。
- 全国平均に比べ、当事業団のストレス値は全般的に低かった。女性の身体的負担のみが全国平均よりやや高かった。
- ④勤務状況
- 退職者：1名（5月-8月:0名、9月:1名、10月-3月:0名）
- 育児休暇者:4名（5月-3月）
- 各部署において超過勤務はなし。
- ⑤職場レクリエーション
- 特になし

一月別医療情報についてー

5月

- ・大腸がん検診参加率は、大腸内視鏡検査よりも免疫学的便潜血検査のほうが高い。免疫学的便潜血検査ベースのプログラムは大腸内視鏡検査ベースのプログラムに対し非劣性であることが確認された。
（スペイン・バルセロナ大学 Antoni Castells氏 Lancet オンライン版2025年3月27日）
- ・食物繊維摂取量が、性別、年齢によって肥満リスクの低下と関係することが明らかになった。
（新潟大学大学院医歯学総合研究科Efrem d'Avila Ferreira氏、曾根博仁氏Public HealthNutrition 2月4日掲載）
- ・週7日のうち連続していない3日の摂取エネルギー量を8割減らし、残りの4日間は自由に摂取する「4:3断続的断食」という方法は、毎日の摂取エネルギー量を少しずつ減らすよりも、減量効果が大きいことが報告された。
（米テネシー大学ノックスビル校Danielle Ostendorf氏 Annals ofInternal Medicine 4月1日）
- ・バターをオリーブ油のような植物性の油に置き換えることによって、早期死亡リスクが低下することが明らかになった。長期的に大きな健康効果をもたらす可能性がみられる。
（米ブリガム・アンド・ウイメンズ病院Yu Zhang氏 JAMA Internal Medicine3月6日）
- ・ペットを飼うことは、家族や友人と定期的に会うことで得られる効果と同程度であること、生活満足度を高めることが明らかになった。
（英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスMichael Gmeiner氏と英ケント大学経済学分野AdelinaGschwandtner氏 Social Indicators Research3月31日）

6月

- ・東洋医学では舌の周囲に歯形がついた歯痕舌は体液貯留を示し、高血圧と関連する可能性があるが、歯痕舌と血圧の関連を調べた疫学研究はほとんどない。今回、順天堂大学の謝敷裕美氏らが日本の地域住民を対象にした東温スタディにおいて検討したところ、潜在的交絡因子の調整後も歯痕舌のある人は収縮期血圧と拡張期血圧が高いことが明らかになった (A.J.Hypertension オンライン版 2025.4.17.)。
- ・オーストラリア・アデレード大学の心理学研究科のMichael Billows氏らの研究グループは、ビタミンCが豊富なキウイフルーツの摂取が、高度気分障害の人に対し心理的ウェルビーイングを改善するか検討した。その結果、キウイフルーツは、気分障害の軽減に潜在的に有益性があることが示唆された (Nutrients 2025.4.18.)。
- ・パキスタン・Rehman Medical InstituteのZarbakhtha Ashfaq氏らは、カフェイン摂取とアルツハイマー病進行との関連性についてのエビデンスをシステマティックにレビューし、評価した。カフェイン摂取量が多い (1日当たり200mg超) 場合と認知機能低下およびアルツハイマー病進行のリスク低下との間に一貫した関連性が示唆された。血漿カフェイン濃度が1,200ng/ml超の場合、軽度認知障害 (MCI) から認知症への移行リスクの低下と顕著な関連が認められた (Cureus 2025.3.20.)。
- ・世界保健機関 (WHO) のInternational Agency for Research on Cancer (IARC) のSabine Naudin氏らは、30コホートの前向き研究の大規模コンソーシアムにおいて、アルコール摂取と膵がんリスクとの関連を検討した。その結果、性別および喫煙状況にかかわらず、アルコール摂取と膵がんリスクにわずかな正の関連が認められた (PLOS Medicine 2025.5.20.)。
- ・超加工食品の摂取に起因する早期死亡は、総エネルギー摂取量に占める超加工食品の割合が高いほど増加することが明らかになった。超加工食品は、飽和脂肪酸、でんぷん、添加糖など、主に自然食品から抽出された物質で作られており、風味や見た目を良くし、保存性を高めるために、着色料、乳化剤、香料、安定剤などさまざまな添加物が加えられている (オスワルド・クルス財団 (ブラジル) Eduardo Nilson氏ら: A.J. Preventive Medicine 2025.4.28.)。

7月

- ・日本の地域在住の中高齢者において、歯周病の進行とアテローム性動脈硬化が有意に関連していることが、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科予防歯学分野の玉木 直文氏らの研究により報告された。潜在性のアテローム性動脈硬化を予防することで、歯周病の状態を改善できる可能性があると述べている。 (Scientific Reports 2025.4.18)
- ・慢性腰痛の予防においては歩行強度よりも歩行時間のほうが重要な要素であり、1日の歩行時間が長いほど慢性腰痛のリスクが低くなることが、ノルウェー科学技術大学のRayane Haddadj氏らの研究により報告された。 (JAMA Network Open 2025.6.13)
- ・中年期の持続的な体重減少は、長期的に2型糖尿病以外の慢性疾患のリスクの低下や心疾患などの死亡率の低下に寄与することが、フィンランド・ヘルシンキ大学のTimo E Strandberg氏らの研究により報告された。 (JAMA Network Open 2025.5.1)
- ・カロリー制限食を実践している人では、特定の食事法を実践していない人と比べて抑うつ症状のスコアが高かったことが、トロント大学精神医学准教授のVenkat Bhat氏らの研究により報告された。 (BMJ Nutrition Prevention & Health 2025.6.3)
- ・米国では2型糖尿病と高血圧を併発している患者が過去20年で倍増し、そのような患者は全死亡リスクが約2.5倍、心血管死のリスクが約3倍に上がることが、米コロンビア大学メイルマン公衆衛生大学院のNour Makarem氏らの研究で報告された。 (Diabetes Care 2025.5.21)
- ・納豆を習慣的に摂取している男性は全死亡リスクが低く、週に数パック摂取する男性では摂取しない男性より40%低いことが、関西医科大学の藤田 裕規氏らの研究で報告された。 (Clinical Nutrition ESPEN オンライン版 2025.6.12)

8月

- ・米国・フロリダ大学のArch G. Mainous氏らの研究グループはBMIに比較して体脂肪率の方が15年間の全死亡、心疾患死亡のリスク予想において優れている可能性を示した。(2025.6.24 Annals of Family Medicineオンライン版)
- ・米マサチューセッツ病院のChenlu Gao氏による研究で特定の昼寝パターンを持つ人は全死因死亡リスクが高まることが示された。(2025.6.8～6.11 APSS年次総会で報告)
- ・新潟大学のRikuto Kaise氏らにより、緑茶摂取量の多さと認知症リスク低下は、独立して関連していることが示唆された。(2025.8 The Journal of Nutrition)
- ・ルンド大学(スウェーデン)心臓病学教授Isabel Goncalves氏らは人々の冠動脈CT血管造影法の画像と食事パターン照合したところ、食事パターンは冠動脈プラークの存在だけではなく、高リスクとされるプラークの特徴にも関連していることを明らかにした。(2025.6.16 CardiovascularResearch)
- ・シンガポール国立大学Chen Ee Low氏らはコーヒー摂取は自殺念慮および自殺企図リスク低下と関連していたが、エナジードリンクは、いずれの有害リスク増加とも関連していたと示した。(2025.6.2 Nutrients)

9月

- ・米ハーバード大学THチャン公衆衛生大学院のZhiyuanWu氏らの研究によると週末にまとめて運動を行う身体活動パターンであっても糖尿病患者の死亡リスク抑制につながることを示すデータが報告された。(Annals of Internal Medicine 2025.7.22)
- ・シドニー大学マッケンジー・ウェアラブル研究ハブ所長のEmmanuel Stamataikis氏による研究によると距離を増やし歩くペースを上げると、心臓病や脳卒中のリスクを減らすのに役立つ可能性が明らかになった。(European Journal of Preventive Cardiology 2025.8.6)
- ・山形大学の鈴木美穂氏らの検討によると週3回以上のラーメンの頻繁な摂取は、特に男性70歳未満、スープを50%以上摂取する習慣やアルコール摂取習慣のある人のグループで死亡リスク増加と関連する可能性が示唆された。(The Journal of Nutrition Health and Aging 2025.8.1)
- ・英UCLのChris van Tulleken氏らの研究によると加工を最小限に抑えた食品を摂取した場合、超加工食品を摂取した場合と比べて、栄養価が同等であっても体重減少幅は約2倍であったことが示された。(Nature Medicine 2025.8.4)
- ・藤田医科大学医学部歯科の吉田光由氏らの研究によると口腔内の健康状態がよくないことと様々な生活習慣病のリスクの高さとの関連性が報告された。(Journal of Oral Rehabilitation 2025.4.17)

10月

- ・高血圧ガイドライン2025 全年齢で130/80mmHg未満を目指す
正常高値でも心血管疾患の発症や死亡リスクが高い事が国内外の研究で示されている為、生活習慣改善後1か月以内に再評価を行い、その後の治療方針を定める。
- ・ネット上に示されている家庭血圧測定方法に多くの間違い
ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)Aletta Schutte氏らの研究
ネット上の1100枚以上の写真を分析し正しい測定方法の写真はわずか14%に留まった。(Hypertension 2025.9.8.)
- ・植物性食品中心の食事が慢性疾患の併発予防につながる
UKバイオバンク(英国)とEPIC(欧州6か国)の調査:植物性食品中心の食生活が、がん、心血管疾患、2型糖尿病のうち2つ以上の併発予防に繋がることを示唆するデータが示された。(The Lancet Healthy Longevity 8月号)
- ・20歳以降の体重10kg以上の増加が、脂肪肝リスクを上昇させる
京都医療センター岩佐真代氏らの研究。脂肪肝発症率はベースライン時のBMI値が高いほど有意に高かったが、脂肪肝発症の最も強い危険因子は20歳以降の10kg以上の体重増加であり、BMI値22未満群で顕著であった。(Nutrients 2025.8.6.)

- ・アブラナ科の野菜摂取が結腸がん予防につながる可能性:中国・Bo Lai氏ら
アブラナ科の野菜摂取量と結腸がんの発生に逆相関が認められた(アジア・北米のみで欧州では有意差なし) 最大のリスク低減をもたらす最適な摂取量は40~60g/日と考えられる。(BMC Gastroenterology 2025.8.11.)
- ・フルーツジュースと2型糖尿病の関連性 東京科学大学医歯学総合研究科河原智樹氏らの研究
フルーツジュースの摂取頻度を「飲まない/1日1杯未満または1日1杯以上」に分類。遺伝的に2型糖尿病の高いリスク群で、フルーツジュースの適度な摂取と2型糖尿病の間に有意な逆相関が認められた。(British Journal of Nutrition on line 2025.7.10.)
- ・大豆製品の摂取と不眠症との関係 温州医学大学(中国)Lanrong Sun氏らの研究。
中国の中高年成人において、大豆製品の摂取量は不眠症と負の相関を示した。また末梢血のCRP、TNF- α 、TGレベルと負の相関関係にあることも明らかとなった。(Nature and Science of Sleep 2025.8.13.)

11月

- ・青年期のデジタル依存症が健康に及ぼす影響～メタ解析
青年期のデジタル依存症は身体的、精神的、行動上の問題を含む、重大かつ広範な健康への悪影響をもたらすことが示唆された。(Journal of Behavioral Addictions 2025.9.30.)
- ・トイレでのスマホ使用は痔のリスクを高める
トイレでスマホ使用習慣がある人(66%)のうち、痔の有病率は43%と高いことが明らかになり、トイレにスマホを持ち込まないことがよいことが報告された。(PLOS One 9.3.)
- ・口腔内の細菌が膵臓がんの一因に？
口腔の健康と膵臓がんとの直接的な因果関係を導き出すことはできないが、細菌の集団をプロファイリングすることで、膵臓がん検査を必要とする患者を特定出来る可能性がある。(JAMA Oncology 9.18.)
- ・日本食はうつ病予防に有効なのか？
とくに緑黄色野菜、大豆由来製品、魚介類を多く含む食生活を順守することは、老年期うつ病の予防につながる可能性がある。(The Journal Nutrition, Health & Again 2025.9.)
- ・慢性便秘の改善にキウイが有効
キウイなどの高繊維食は、健康全般や大腸がんのリスクの軽減、腸の健康に非常に有益である。キウイ、ライ麦パンの食用は慢性便秘改善に推奨できることが報告された。(Journal of Human Nutrition and Dietetics 10.13.掲載)

12月

- ・女性の冠動脈疾患による死亡リスクの低下に対する運動の効果は男性の3倍以上であったことが示された。女性は男性と比べて、半分の運動時間で同等の健康効果が得られる。(Nature Cardiovascular Research 2025.10.27)
- ・メタボ予防効果が高い歩数について調査を行った。1日平均歩数が多いほどメタボ発症が低いことが分かった。(Obesity Research&Clinical Practice オンライン版 2025.11.2.)
- ・夜間照明が心疾患リスク上昇に影響することが分かった。特に若年者では、夜間の光曝露と心不全および心房細動リスクとの関連が大きいことが分かった。(JAMA Network Open 2025.10.23.)
- ・ココアやベリー類に多く含まれるフラバノールを豊富に含む食べ物や飲み物を摂取することで座位行動による血管への悪影響を予防する効果がある。(The Journal of Physiology 10.29.)
- ・歯磨き習慣と高血圧との関連について検討した。朝食後の歯磨きおよび1日3回以上の歯磨きが高血圧のリスクの低下と関連していた。(Scientific Reports 2025.10.9.)

1月

- ・ブロッコリーやキャベツなどのアブラナ科野菜の摂取量が多いほど乳がんリスクが低くなる 米・ハーバード大学サンアントニオ乳がんシンポジウム(12月9~12日)
- ・小児期の肥満は成人してからの診断件数が多くなる デンマーク・コペンハーゲン大学病院 (Obesity オンライン版 2025.11.8.)

- ・亜鉛欠乏は、認知症リスクを34%上昇させ、肺炎発症リスクを72%上昇させることと関連していた（台湾・Chi Mei Medical Center Frontiers in Nutrition 2025.11.4.）
- ・週1回以上の習慣的なチーズの摂取は、高齢者における認知症発症リスクの低下と中程度の関連性が認められた新見公立大学（Nutrients 2025. 10.25.）
- ・10代（18歳まで）の約8人に1人が難聴の兆候：青少年の娯楽による大音量は長期間続けると騒音声難聴のリスクを高める オランダ エラスムス大学医療センター：(Otolaryngology-Head and Neck Surgery 2025.10.14.)
- ・内臓脂肪を抑えるには、習慣的な運動と食生活の改善の双方が大切 英・ケンブリッジ大学英国医学研究会議（JAMA Network Open 2025.11.21.）
- ・規則正しい就寝習慣で運動量の増加や塩分摂取量の削減と同等の降圧効果を得ることができた。米・オレゴン健康科学大学（Sleep Advances 2025.11.17.）
- ・腰痛時の日常動作は短期的な腰痛憎悪と関連するが、長期的な機能障害とは関連しなかった。米・Veterans Affairs Puget Sound Health Care System（JAMA Network Open 2025.12.1.）

2月

- ・残存歯が少ないほど複数の死因での死亡率が高まり、補綴物の使用でリスクが弱まる可能性が示された。（Scientific Reports 11.19.）
- ・数種の保存料の摂取率が多いことと、がん罹患率が高いことは関連していると報告された。（BMJ 2026.1.7.）
- ・エナジードリンクの飲み過ぎは高血圧を引き起こし、深刻な脳卒中リスクを招く可能性があるとして、医師らが警鐘を鳴らしている。（BMJ Case Reports 12.9.）
- ・家事や散歩などの軽強度運動が、メタボリックシンドロームなどに該当する人の死亡リスク低下につながっている可能性が報告された。（Journal of the American Heart Association 1.7.）
- ・1日5分の中高強度身体活動の増加で、総死亡の10%を予防する可能性があり、さらに1日30分の座位時間の削減が、総死亡の7.3%を防ぐ可能性があることが報告された（Lancet 2026.1.24.）

3月

- ・シドニー大学のNicholas Koemel氏らの研究で、高齢者において、あと数分長い睡眠時間を確保する、もう少し身体を動かす、食事の質を少しだけ改善するといった日々のごく小さな行動変容が、長生きや健康の維持に寄与する可能性が示された。（eClinicalMedicine 2026.1.13.）
- ・英ブリストル大学のJeff Brunstrom氏らの研究で、未加工の食品を丸ごと食べる「ホールフード食」は、たくさん食べても体重を減らせる可能性が高いことが示された。（The American Journal of Clinical Nutrition 2025.12.29）
- ・大阪公立大学の井田 智章氏らの研究グループは、納豆の発酵過程において、抗酸化作用などを有する「超硫黄分子」が増加することを明らかにした。（Nitric Oxide 2026.2.）
- ・中国・復旦大学のBerty Ruping Song氏らの研究で、コーヒー摂取と精神疾患との間にはJ字型の関連が認められ、適度なコーヒーの摂取は精神衛生に有益である可能性が示された。（Journal of Affective Disordersオンライン版 2025.12.19）
- ・イスラエルのワイツマン科学研究所のBen Shenhar氏らによる研究で、寿命の約55%は遺伝によって説明される可能性が示された。（Science 2026.1.29.）

【2】環境整備:

1. 労働環境測定

- ・2-3ヶ月毎当ビル管理会社が実施:問題なし
(各部署において夏期に相対湿度が上昇傾向、冬期に低下傾向)
- ・局所的に暑いところは扇風機で対応、冬期の乾燥時期には加湿器を使用
(加湿器のカビ発生に注意)

2. 職場巡視(8月12日、2月20日に実施)

- ・感染症予防対策についても巡視
- ・耐震関連はほぼ済んでいる
- ・薬局では冬期に暖房が効きすぎ、扇風機を使用。
- ・診察室の窓辺付近で西日が強く眩しい。対策:棚の荷物を整理し、ブラインドを 使える様にする。
- ・地震対策として高いところに物を置かないなど注意して欲しい。
- ・事務局の通路が狭い。
- ・防災食品(パン)、飲料水、災害時トイレ、毛布などはこれまでどおり各部署で管理。

3. 掲示物管理:月1-2回の掲示物のチェックの実施

- ・7月 带状疱疹ワクチン定期接種のご案内
マンモグラフィ検査の注意事項を掲示(乳房検査室内)
- ・8月、10月、12月 健康セミナーの案内
- ・11月 薬の副作用に関する掲示(慶應義塾大学医薬公開講座シリーズ)
- ・3月 第52回健康セミナーWeb配信の案内

4. ご意見番アンケート(3件)・CSメモ(2件)(各ご意見に対し可能な範囲内で対応)

*ご意見番アンケート:全体1件、健診1件、外来1件

ー 全体ー

- ・アンケート用紙をQRコード方式に変換予定(しばらくは紙とQRコードを併用)

ー 健診関係ー

- ・8月:血圧測定時圧迫によりあざができやすい:今後手動血圧測定で対応する。

ー 外来関係ー

- ・8月:医師を先生と呼ぶことに違和感あり。医師でよいとのご意見。

ご意見番アンケートについては受診者から寄せられた声に対し真摯に対応する。

*CSメモ:健診 1件、外来 1件

- ・8月:健診問診待ち時間が長かった:問診待ち時間が長い場合、検尿等問診前にできる検査を先に実施する。午前定期検診で婦人科がない場合、問診はしないで 採血から始める。
 - ・12月:健診再検査来院者(外来)について、健診結果に同封されている受診案内に診察券やお薬手帳の持参についての記載がなかった。今後検討予定。
- ご意見番アンケート、CSメモについては事故防止委員会とも連携し、定期的に内容の点検と再発防止に努める

5. 受診者向け図書・ビデオなど

特記事項なし。

6. その他:

- ・5月:ゴミ箱に注射針が捨ててあり、清掃業者の方が刺してしまった。清掃業者の方については外来で感染症検査等迅速に実施。ゴミ箱には注射針等廃棄しないように注意喚起の掲示をする。
- ・防災について:6月24日に防火防災対象物の点検。各部署でのスプリンクラーの散水状況の確認、避難路における障害物の確認と撤去を実施。
- ・1月:新宿区保健所衛生課より、インフォームドコンセントについて「新宿区患者の声相談窓口からのお知らせ」の通知。

次年度の課題

1. CSメモの充実
2. ストレスチェックの継続実施
3. 冬季におけるウイルス感染症への対応
4. 新たな医療情報の提供

(船津 和夫 記)

薬事委員会

1. 新規申請:4件

- ・レパーサ皮下注ペン140mg:ヒト抗PCSK9モノクローナル抗体製剤
- ・ナルティークOD錠75mg:経口CGRP受容体拮抗薬
- ・ユリス錠0.5mg・1mg:選択的尿酸再吸収阻害薬高尿酸血症治療剤
- ・アネレム静注用20mg:超短時間作用型ベンゾジアゼピン系 全身麻酔・鎮静用剤

2. ワクチン関連

(1) 新型コロナウイルスワクチン定期接種について

- ・当院での「コロナワクチン接種」実施について検討

1人用ワクチン【コミナティ筋注シリンジ12歳以上用】Pfizerが発売され、温度管理も「2~8℃」なので一般のワクチンと同様に取り扱いできるようになった。

- ・予約制、すべての外来で問診・接種可能

(2) RSウイルスワクチン定期接種事業の実施について

妊娠28週から37週に至る方が対象となるため

- ・かかりつけの産婦人科医師に接種許可を得ているか確認する。
- ・できるだけ常勤医師の外来日で予約を取る。

(3) 2025年度インフルエンザワクチンについて

- ・2025年度(2025-2026年シーズン)は、従来の4価から3価へと変更された。
- ・インフルエンザB型(山形系統)は、コロナ禍の影響で流行が減少しワクチン製造株の対象から外れ、A型(H1N1・H3N2)、B型(ビクトリア系統)の3価となった。
- ・流通良好、10月1日からの接種が可能。企業の団体予約も新規受付が可能。
- ・今年度はメーカーによる「未使用ワクチン回収」が1カ月早く、2月3日に3V返却した。1月に入ってから接種者は0人。

(4) 破傷風トキソイド出荷調整の影響について

当院では毎年2~3月にかけて20~30回分の団体予約が入る。一度に大量発注しても確保できないので、11月より少量ずつの発注を開始し、必要バイアル数を全て確保することができた。

(5) 带状疱疹ワクチン定期接種について

令和7年度の対象者が定期接種を受けられるのは、令和8年3月31日まで。シングリックスの場合、2か月以後に2回目を接種するので1回目を少なくとも1月中旬に接種する必要がある。この点については、予約を取る段階で注意する。

(6) 高齢者肺炎球菌ワクチン定期接種について

2026年4月1日より定期接種で使用するワクチンが【ニューモバックス】から【プレベナー20】に変わる。4月からは肺炎球菌ワクチンは常備在庫にせず、必要な時に取り寄せるので、問い合わせの際は「要予約」をご案内する。

3. 安全性速報（ブルーレター）の報告

【ラミクタール錠】抗てんかん薬：成分名ラモトリギン（グラクソ・スミスクライン株式会社）

重篤な皮膚障害があらわれることがあり、2015年2月に安全性速報（ブルーレター）を発行し、添付文書の「使用上の注意」の改定を実施した。ブルーレターの発行以前と比較して近年では重篤な皮膚障害の報告は減少傾向にあるが、用法および用量を遵守していない症例や、皮膚障害発現から投与中止までに時間を要した症例が少数ながらも報告されている。投与の際は最新の電子添付文書を確認し適正使用の徹底をお願いする。（当院該当患者なし）

4. 「サイレース静注2mg」アンプルカット不具合について

一部のアンプルにおいて折れにくい状況が発生しており、該当ロット製品は無理に手で割ろうとせず、必要に応じてアンプルカッターの使用を推奨。

⇒当院では該当ロットを令和7年3月14日から6月25日まで7箱購入したが、1Aを残し問題なく使用できた。

5. 腎機能が低下している方に使える薬剤のまとめ

当院で処方される汎用薬（消炎解熱鎮痛、鎮咳・去痰、胃薬、抗アレルギー薬、湿布薬）についてまとめ、医師と情報共有。

6. 2026年薬価改定の影響について

2025年4月1日～2026年2月28日購入実績（卸1社）を試算した総薬価は、旧包装薬価3,203,400円→新包装薬価3,189,461円となり、影響額は-13,939円（-0.44%）となった。全体としては大きな影響はないが、【沈降破傷風トキシイド「生研」0.5ml】が1バイアル（+10.3%）値上がりし、毎年2月に団体予約が約30回分入るので現行接種料金3,960円（税込）の改定が必要か否かは、医局会及び事務局に委ねる。

7. 社会保険診療報酬支払基金による減点について

減点内容と査定理由を報告

8. 新しく登録された薬剤（当院初処方）の紹介；20品目

9. 出荷調整で流通が滞っている薬剤の紹介

毎月、「新たに出荷調整・製造中止となった薬剤」、「不足が継続している薬剤」、「在庫不足が解消された薬剤」を紹介。

以上

（丸田 陽子 記）

研究・研修・図書委員会

2025年度の当委員会は中村淳が委員長を拝命致しましたが、前年度委員長不在で引継ぎなども困難であったため、副委員長土田さんや委員各位のサポートを得ながら手探りで活動となりました。

過去の記録参照や委員からのヒアリングで委員会の目的について確認・共有するところから開始しました。

具体的には職員の能力向上のための各種研修会の企画と各部署の研究活動の運用・取り纏めを中心に活動致しました。

職員研修会については今年度も対面による研修は実施せず、動画配信、DVDやPowerPoint閲覧の形式で各職員が時間のある時に参加し、研修終了時には閲覧確認書へサインし確認する事により、各自の働き方に合わせた効率的な研修となるよう心がけました。

研修内容としては、健康セミナー動画、健康講座、AEDの取り扱い、個人情報保護法について研修しました。

また7年度の職員研究については抄録を作成致しましたので、広く供覧しご意見ご感想アドバイス等を戴きたいと考えております。

2025年度の職員研究課題テーマは以下でした。

診療報酬の増収（診療事務課）

大腸内視鏡検査前処置状況と残便量との関連調査（看護部）

働きやすい職場づくり7 ～就業時間と休日のあり方を考える～（事務局）

白血球と血圧の関連について ～喫煙との関係から見て～（臨床検査部）

オプション検査について（健診事務課）

乳腺エコーにおけるゲルパッド使用による嚢胞描出の改善（放射線部）

健診終了時の説明による再検査/精密検査受診率向上への影響（保健部）

各々、日常業務に繋がる身近な問題からの研究テーマであり、研究にとどまらず事業団での業務改善にも寄与する大変興味深いものでありました。

《今後に向けての反省・改善点》

2026年度はさらに能動的な取り組みに展開していきたいと考えます。

コロナ禍で中断となっていた職員研究の発表会を皆様のご協力を得ながら、対面で再開したいと考えております。

健診や診療との日程調整も考慮し2026年度の研究（2027.4予定）から行います。

また職員研修会の内容も質量ともパワーアップしていきます。

今年度は図書についてはあまり関われませんでした。医局の医学雑誌の整理管理や内容の見直しなどを行っていきたいと考えております。

今年度も研究・研修・図書委員会の活動に引き続きご協力をよろしくお願い申し上げます。

（中村 淳 記）

情報システム委員会

◎ 令和7年度 情報システム委員会 活動報告

令和7年度は、昨年度に引き続き、医療機関におけるサイバーセキュリティ対策について、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第 6.0 版」のチェックリストに基づき対応状況の確認を行った。

あわせて、2027 年 1 月の新システム（健診システム、電子カルテ等）稼働に向けた検討・対応を進めた。

主な活動内容は以下のとおりである。

1. 目的

- ・ 規程およびマニュアルの整備・更新
- ・ サーバーおよびサーバー室の運用・管理体制の整備
- ・ セキュリティインシデント対応体制の構築と情報共有
- ・ 職員に対するセキュリティ教育・啓発の実施
- ・ 令和 7 年度版「医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト」への対応
- ・ 2027 年 1 月の新システム稼働に向けた対応の検討

2. 背景

医療法施行規則の改正により、医療機関の管理者には、医療提供に重大な支障が生じないよう、サイバーセキュリティ確保のために必要な措置を講じることが求められるようになった。これを受け、厚生労働省は立入検査項目に「サイバーセキュリティ対策の実施状況」を追加し、令和 5 年 6 月より検査を実施している。

ここで求められる「必要な措置」とは、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に基づく各種セキュリティ対策を適切に実施することである。

また、2027 年 1 月の新システム稼働に向け、セキュリティ体制の整備が重要な課題となっている。

3. 活動内容

- ・ 情報セキュリティ規程、アクセス権管理規程、バックアップ運用規程等の策定および見直し
- ・ 各部署で利用する医療システム（健診システム、電子カルテ等）について、セキュリティ対応マニュアルの整備・更新および業務手順の標準化（属人化の防止）
- ・ サーバー機器リストの作成、保守契約管理、OS・ソフトウェア更新、バックアップ、ログ管理、アクセス権管理等の運用ルールの明文化
- ・ サーバー室（令和 8 年度設置予定）に関する管理規程の策定
 - 入退室管理・施錠等の物理的セキュリティ
 - 空調・防火・防災・無停電電源装置等の環境管理
 - 災害・障害（火災、地震、水害、サイバー攻撃等）への対応
 - 業務継続計画（BCP）の整備
- ・ サイバー攻撃、不正アクセス、情報漏えい等のインシデント発生時における対応体制の整備（初動対応、報告、復旧、再発防止）
- ・ 他施設・業界におけるインシデント事例の収集および共有
- ・ 職員向けセキュリティ教育の実施
（例：パスワード管理、メール添付ファイルの取扱い、不審アクセス時の報告等）
- ・ 組織全体の情報リテラシーおよびセキュリティ意識の向上
- ・ 厚労省チェックリスト（令和 7 年度版）に基づく自己点検の実施および未達項目の改善計画策定
- ・ PDCA サイクルによる継続的な改善の推進
- ・ 新システム稼働に向けた対応方針の検討

4. 次年度に向けて

次年度は、これまで整備を進めてきた各種規程および運用手順について、新電子カルテおよび健診システムのリプレイス内容と整合性を図るだけでなく、実運用における有効性検証（運用テスト等）を通じた実効性の確保に重点を置く。

あわせて、運用の標準化および属人化の防止に加え、運用状況の可視化（ログ管理・定期点検・評価指標の設定）を進め、継続的に改善できる体制の構築を図る。

セキュリティ対策については、システムリプレイスと並行した対応から一歩進め、リスクアセスメントに基づく優先順位付けと対策の体系化を行い、組織全体としてのセキュリティレベルの底上げを図る。

サーバー室の新設・改修に関しては、物理的セキュリティおよびアクセス管理の強化に加え、運用開始後の管理プロセス（入退室記録の定期確認等）の定着までを含めた運用体制を確立する。また、サイバー攻撃への対応力強化に向け、疑似攻撃を想定した訓練を行い、インシデント対応マニュアルについても実践的な見直し（訓練結果の反映）を継続的に実施する。さらに、職員教育については従来の注意喚起型から発展させ、定期的な研修会の実施、教育プログラムの導入を目指し、組織全体のセキュリティ対応力の底上げを図る。

これらの取組により、医療情報の安全性確保に加え、障害・インシデント発生時においても業務継続および早期復旧が可能な体制の構築を目指す。

以上

（長津 秋彦 記）